

参加者全体で行う

学び
4

4つのコーナー

自尊感情を考える

【学習のねらい】

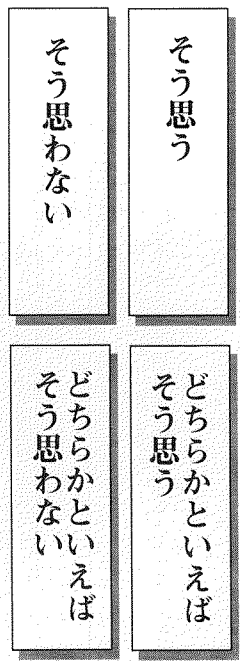
- ・人はそれぞれ考え方が異なっていることを受け入れ、その違いを尊重できる。
- ・今の自分を見つめながら、自分の中にある思いこみに気づくことを通して、自分らしさを発見したり、自分がかげがえのない存在であることに気づく。

【準備するもの】

- ・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」のカードを用意し、部屋の4隅に貼る。

【進め方】

- (1) 読まれた事例について、自分の考えに最も近いコーナーに移動することを参加者に説明する。
- (2) ワークシートを読み上げて、コーナーに移動してもらう。
- (3) 別れた後で、その理由を聞いてみる。
- (4) 他の人の理由を聞いた後に再び移動をする。
- (5) 何問か繰り返した後に、ふりかえりをする。(感想など)



<自尊感情に関わる問題例>

- * 今の自分が好きである。
- * 自分は、笑顔でいることが多い。
- * 自分は個性豊かである。
- * 自分のことを大切にしている。
- * 今度、生まれるときも男(女)に生まれていたい。

【留意点】

- (1) 事例の内容は、対象者やねらいに応じて準備をしておく。
- (2) それぞれ認め合いながら、互いに“大切にされている存在だ”という実感が得られるように進行していく。

※参考図書：「わたし、あなた、そしてみんな」ERIC国際理解教育センター

【発展】

ねらいによっては、次のような様々な人権問題に関わる問題例も準備しておくもよい。しかし、参加者の中にはいろいろな考え方があり、それぞれの立場を尊重した扱いをするなど、配慮が必要である。

<女性の人権>

- * A子さんのように「好きな人のために料理を作ってあげたい」というのは、女性らしくて素敵なことだ。
- * 子どもが小さいときは、母親が家にいて育てる方が子どもにとってよいと思う。

<子どもの人権>

- * 子どもが、お母さんの財布からお金を持ち出したので、息子を正座させ、過ちをただしたのは当然のことだ。
- * テストの成績が悪かったので、「お姉ちゃんを見習いなさい」と励ますのはよいことだ。

<高齢者の人権>

- * 痴呆のお年寄りが勝手に出ていくと危険なので、部屋にはいつも鍵をかけておいた方がよい。
- * 車椅子の人やお年寄り、混雑するとわかっているところには出かけない方がよい。

<障害者の人権>

- * 身体に障害があるということは、かわいそうなことだ。
- * Aさんが、精神科に通院していることを隠して就職するのは仕方のないことだ。



参加者が自分の思いをマイクを使い全体に発表します。